

10月7日(土)〜8日(日)に道の駅神楽苑において「第15回神楽フェスティバル」が開催されます。今回は波野に伝わる二つの岩戸神楽を紹介します。

## 波野の岩戸神楽

文化財保護委員

榎木野 不羈夫

神楽の起源については、二つとも豊後神楽の系統で大分県から伝わったものとされています。中江の岩戸神楽は御獄流(大分県豊後大野市清川町)が、横堀の岩戸神楽は深山流(大分県豊後大野市朝地町)がそれぞれ伝承されています。

神楽保存会は、多忙のなか神楽を中心とした地域おこしに協力し、各地での公演や定期的な公演活動、子どもたちへの継承活動などを行っています。

## 中江の岩戸神楽

(国選択無形民俗文化財)

昭和50年指定

明和2年(1765)年に大野川流域の村々を経て中江に伝えられたものとされています。中江に伝わった神楽は、荻岳山頂にあった荻神社(現在は山の麓)に奉納され、地域の人々により保存・継承されてきました。

伊勢神楽・出雲神楽・高千穂神楽の粋を集め、更に宮中雅楽も取り入れ、これを三十三座に配して独特な神楽が構成されています。

また、熊本県立劇場の鈴木健二館長(当時)の目に留まり、平成2年に「中江岩戸神楽三十三座完全復元県立劇場一昼夜公演」を成し遂げ、今日の盛名のもととなっています。

## 横堀の岩戸神楽

(市指定無形民俗文化財)

昭和56年指定

横堀集落内にある菅原神社とともにその起源を同じくして伝えられたとされています。文政6年(1823)の神楽面があり、この頃に

はすでに成立していたようです。明治から大正時代にかけて盛んになり、五穀豊穡・家内安全・出陣の武運祈願等で奉納されてきました。戦争などのため衰退した時期もありましたが、地域の人々の熱意により復活し、現在は十三番の演目が保存・継承されています。



▲横堀岩戸神楽「天てんのしめ」



中江岩戸神楽「地割じわり」▶

